

性の多様性 LGBTQ+勉強会

2025年12月17日
17:00～18:00
合理的配慮推進委員会



堀川歩

HORIKAWA
AYUMU



開催の背景

従業員のLGBTQ+の
知識不足と不安の
解消

学習内容

介護現場における
具体的課題とハラ
スメント防止

今後の対応

アライとしての行
動と「個別ケア」
の徹底

LGBTQ+当事者の株式会社アカルク 堀川歩氏を招いてLGBTQ+勉強会を開催しました。土屋社員の約75%がLGBTQ+の知識不足という課題を背景に、トランスジェンダーの多様性や介護現場のアウティング、ハラスメント等のリスクを学習しました。当事者の心理的安全性を守る「個別ケア」やアライとしての行動の重要性を共有し、まずは身近なところから「一人ひとりを大切にするケア」を実践していきましょう。



国内におけるLGBTQ+当事者の割合は約3～10%とされ、職場や利用者、家族・友人の中に当事者が存在していても不思議ではありません。事業者として性の多様性に関する理解促進、研修の実施、相談体制の整備が求められています。



トランスジェンダー当事者の治療状況や考え方は一人ひとり異なります。介護現場では一律の対応ではなく、本人の意向を丁寧に確認し続ける“個別ケア”的視点が重要であり、柔軟に対応する姿勢が大切です。



LGBTQ+当事者の約4割が「誰にも相談していない」と回答しています(出典：株式会社アカルク、株式会社アスマード共同調査2024年8月7日～8月21日に行った有職者1万人を対象とした職場におけるLGBTQ+調査)。カミングアウトを受けた際には、「話してくれてありがとう」と受け止める姿勢が大切である一方で、本人の許可なく第三者に伝える「アウティング」は決して行ってはならない行為です。ハラスメント防止法の対象となる行為であり、「知らないかった」では済まされません。

アンケート結果

94%

70%

勉強会の結果として、非常に満足・満足と回答した方が94%、ガイドブックの所持率は70%でした。

合理的配慮ガイドブックアテンダント向けverは各事業所へ配布していますので、お持ちでない方がいらっしゃいましたら上長へご確認いただけますようお願いいたします。